床用　透明塗膜保護

セブンプロテクトウレア
ハード骨材工法

施工要領書

2026年8月改訂

Seven Chemical
株式会社 セブンケミカル

目次

1. セブンプロテクトウレア　ハード骨材工法 2

2. 適応下地 2

3. 施工フローチャート 3

4. 注意事項 3

5. 施工上の注意 4

6. 使用材料一覧 5

1. セブンプロテクトウレア ハード骨材工法

工　　程		材 料 名	希 釈 （重量%）	所要量 （kg/㎡）	工程時間 （H）	施 工 方 法
1	下塗り	セブンプロテクト ウレアシーラー （基剤＋硬化剤）	無希釈	0.1	3～24	中毛ウールローラー 刷毛
2	中塗り(1)	セブンプロテクト ウレア （基剤＋硬化剤）	無希釈	0.3	5～48	中毛ウールローラー 刷毛
3	中塗り(2)			0.3	5～48	中毛ウールローラー 刷毛
5	上塗り （艶有/艶消）	セブンプロテクト ウレアトップ （基剤＋硬化剤＋ハード骨材）	セブンプロテクト ウレアトップ専用 シンナー （0～3）	0.1	24～最終 養生	短毛ウールローラー 刷毛

※吸い込みの多い下地や目地モルタルの幅、タイルの形状によって上記よりも下塗り材の所要量が増えることがあります

※工程間隔は気温・温度により変化します。

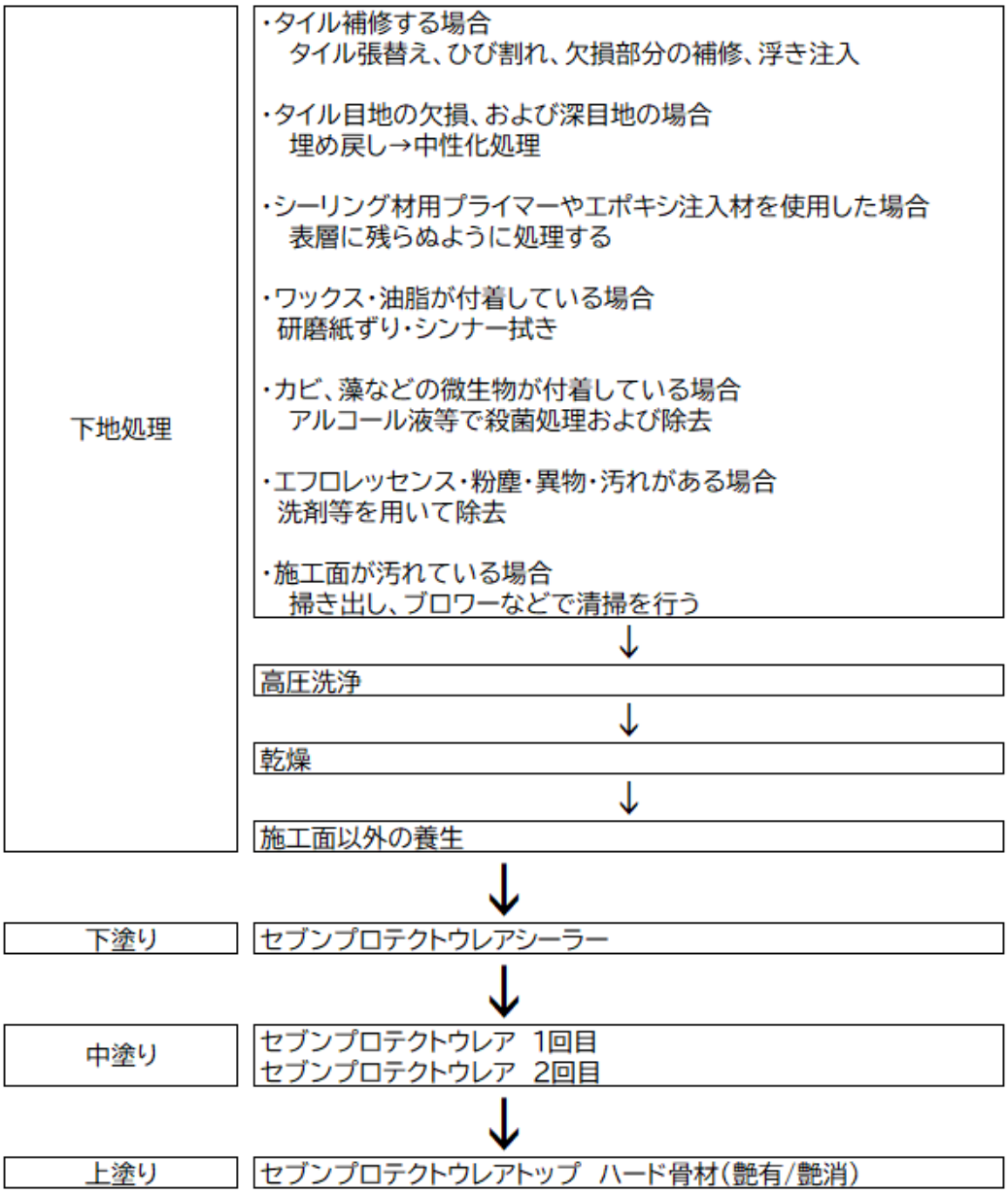
※施工時に気温が高温だと当日でも糸引きや気泡が発生する恐れがあります。指触で乾燥を確認後、当日中に塗り重ねてください。

2. 適応下地

タイル張り面
石材（御影石等）

※タイル目地は浅目地に調整してください
※既存塗膜の上には施工を避けてください。
※駐車場や車両のような重量物の通行経路は施工を避けてください。
※床面下地側に常に水分が滞留している場所は施工を避けてください。
※仕上げ、および付着性は試験施工を行って確認してください

3. 施工フローチャート



4. 注意事項

（1） 外気温が 5℃以下及び 35℃以上の場合は施工を避ける。
（2） 施工前から施工後にかけての乾燥硬化の過程で雨・結露・霧・雪・霜等が予想される場合は施工を避ける。
（3） 強風の時は塗材の飛散被害・塗付けムラ等の支障をきたすため、十分風養生対策を行うか施工を避ける。
（4） シーリング材の上への施工は避ける。
（5） 全面を施工しない場合、取合い部から水分の影響を受けないように目地などで見切り処理を行う。
（6） 材料は、風雨・直射日光を避け 5℃以上の冷暗所で保管する。
（7） 使用する材料について製品安全データシート(SDS)を事前に入手し、関連諸法令を厳守して施工を行う。
（8） 労働安全規則等に定められている安全規則に基づき適切な装具を着用する。
（9） 歩行動線の確保が必要な場合、あらかじめ目地部分で見切るなど施工範囲の確認を事前に行う。(※)

※透明仕上げの為、塗り重ね回数による光沢の差異が生じる可能性があるため、塗継ぎの際にラップによる光沢に違いの出ないよう配慮すること。

5. 施工上の注意

セブンプロテクトウレアは透明仕上げとなります。塗膜下の汚染物を取り除く機能はありませんので、施工前の下地の洗浄不足、塗膜内への異物の混入、気泡を巻き込んだままでの表層硬化、液溜まりなどにより、意匠性を損なってしまう恐れがあります。下記に注意して施工してください。

(1)下地処理

① 下地の欠損やタイル下地を含むタイルの浮き、ひび割れ箇所などの下地処理を適切に行う。
② 目地が 3mm 以上の深さがある場合はタイルと平滑になるように埋め戻し、中性化処理を行った後に十分に目地モルタルを乾燥させる。
③ シーリング材用プライマーやエポキシ注入材は紫外線により黄変するため表層に残らぬよう処理する。
④ ワックスや油脂などが表面に付着している場合は研磨紙ずり、およびシンナー拭き等によって除去する。
⑤ エフロレッセンス、塵埃、付着異物は洗剤等を用いて除去後、洗浄剤成分が残らないように高圧水洗などを行い、十分に乾燥させる。
⑥ カビや藻などの微生物が生じている場合はアルコール液等で殺菌処理および除去する。
⑦ 塗装面が汚れている場合は掃き出し、ブロワーなどで清掃してから塗装面以外の養生を行う。

(2)下塗り

① セブンプロテクトウレアシーラーは 2 液型塗材のため、基剤および硬化剤をそれぞれ攪拌し均一の液体とする。その後、基剤 13:硬化剤 1 になるように計量し、十分に攪拌する。
② 目地モルタル部分や、コンクリート打ち放し面は濡れ色が均一になるように施工する。吸い込みによる濡れ色のムラが発生した場合は必ず当日中に薄い部分にセブンプロテクトウレアシーラーの追いかけ塗りを行い、意匠を均一化させて中塗り以降の工程に移行する。

(3)中塗り

① 可使時間が 30 分程度と短いため、塗る範囲を事前に確認しておく。
② 指触確認し、下塗りの乾燥後中塗りを開始する。
③ セブンプロテクトウレアは 2 液型塗材のため、基剤 1:硬化剤 1 になるように計量し、十分に攪拌する。
④ 中毛ウールローラーにセブンプロテクトウレアを十分に含ませ、気泡が混入しないように配り塗り、均一に仕上げる。

※ 高温時の施工や塗継ぎ箇所で気泡混入による白濁する可能性があるため、施工時の下地の温度や塗重ねの時間差に気を付けて施工してください。

(4)上塗り

【!!!注意事項!!!】

中塗りの 2 回目の施工が完了してから 48 時間以内に上塗りの工程に入る。48 時間以上経過してしまった場合、上塗りの密着性に影響が出るため、もう一度中塗りの工程に戻り、セブンプロテクトウレアを 0.1～0.3 ㎏/㎡施工すること。

① セブンプロテクトウレアトップは 2 液型塗材のため、基剤および硬化剤をそれぞれ攪拌し均一の液体とする。セブンプロテクトウレアトップの艶消を使用する場合、基剤の中で艶消し材が沈降していることがあるため、混合前にハンドミキサー等で基剤を十分撹拌し、塗棒、ヘラ等で缶のコーナー部の溜まりもキレイに落とし、良く混合する。
② 基剤を十分に混ぜた後、基剤 11:硬化剤 1：骨材1になるように計量し、攪拌棒等で十分に攪拌する。
③ 気温が高く糸引きする場合や、気温が低く泡含みする場合には、セブンプロテクトウレアトップを「セブンプロテクトウレアトップ専用シンナー」で 0～3%程度で希釈し、十分に攪拌する。
④ 上塗り施工後、ムラやカスレがある場合は当日中に 2 回目の施工を行う。(※1)
⑤ 仕上げ面は、十分乾燥硬化させるよう、24時間以上乾燥養生する。(※2)

※1 高温時の施工の際、当日でもリフティングの恐れがあります。指触確認し乾燥していれば当日中にすぐに追いかけ塗りを行ってください。

※2 昼夜の寒暖差が大きい日や高湿度、結露が発生しやすい時期はブラッシングが起きることがあります。施工時の気象条件にはご注意ください。

6. 使用材料一覧

工程	製　品　名	容 量	荷 姿	混合比
下塗り	2液強溶剤アクリルシリコン樹脂 セブンプロテクトウレアシーラー	14kg セット （基剤 13 kg/硬化剤 1 kg）	金属缶	基剤:硬化剤 13:1
		4kg セット （基剤 3.72 kg/硬化剤 0.28 kg）		
中塗り	2 液無溶剤特殊ウレア樹脂 セブンプロテクトウレア	3kg （基剤 1.5 kg/硬化剤 1.5 kg）	金属缶	基剤:硬化剤 1:1
上塗り	2液弱溶剤アクリルシリコン樹脂 セブンプロテクトウレアトップ ハード骨材 （艶有・艶消）	12.5kg セット （基剤 11 kg/硬化剤 1 kg/骨材 0.5kg）	金属缶	基剤:硬化剤:骨材 11:1:0.5
		3. 12kg セット （基剤 2.75 kg/硬化剤 0.25 kg/骨材 0.12 kg）		
希釈	セブンプロテクトウレアトップ 専用シンナー	16L	金属缶	—
		4L		

株式会社 セブンケミカル

東京都港区芝公園 2-4-1 芝パークビル A 館 12F
TEL 03(6809)2597　FAX 03(6809)2598
https://www.seven-chemical.co.jp